

ArcGIS 10 以降でサポート停止になるコンポーネントおよび環境

製品	分類	ArcGIS 10 で未サポート	ArcGIS 10 の次バージョンで未サポート
ArcGIS Desktop	コンポーネント	Crystal Report ウィザード	
		ArcPad 6 ツールバー	
		インポートスキーマ ウィザード *1	
	動作環境	Microsoft Windows 2000	
		Internet Explorer 6(IE6)	
開発環境	Microsoft Visual Basic 6(VB6)	Visual Basic for Applications(VBA) *2	
		Microsoft Visual Studio 2005	
ArcInfo Workstation	コンポーネント	Database Integrator	ArcSDEへのアクセス機能
	動作環境	IBM AIX	Solaris
		Microsoft Windows 2000	
ArcGIS Server	動作環境	Internet Explorer 6(IE6)	
	開発環境	Microsoft Visual Studio 2005	
ArcSDE	DBMS環境	Microsoft SQL Server 2000	
ArcIMS	コンポーネント	ArcMap Server Extension	※ArcIMSの国内販売はArcGIS 10が最後となります。ArcGIS 10の次バージョンでの販売予定はありません。
	動作環境 *3	IBM AIX	
		Solaris	
		Windows Server 2003	
		Windows Server 2008	
		Windows XP	
		Windows Vista	
Internet Explorer 6(IE6)			
ArcGIS Mobile	開発環境	Microsoft Visual Studio 2005	

*1 CASE ツールで作成されたモデルをインポートするウィザードです。ArcGIS 10 で CASE ツールで作成したモデルをインポートするには別途アドオンをインストールする必要があります。

*2 VBA で実現していた機能の移行については以下が考えられます。

◆処理を自動化したい場合

Python の利用をおすすめします。ArcGIS 10 では従来のジオプロセッシング ツールに加えて、マッピング機能がPythonで利用可能になります。

◆新しいインタフェースを追加したい場合

ArcGIS 10 から「Add-in (アドイン)」と呼ばれるカスタマイズ手法が登場します。従来のカスタムコマンドと似ており、コマンドやツール、ドッカル ウィンドウなどを作成することができますが、作成したコマンドをレジストリに登録する必要がないなど、より容易な配布・管理が可能です。

なお、ArcGIS 10ではVBAはデフォルトでインストールされずオプション扱いとなります。VBA用のインストーラは製品に含まれていますので、必要に応じてインストールする必要があります。また、VBAを使用するためのライセンスも別扱いになりますので認証番号から別途ライセンス(無償)を取得する必要があります。

*3 ArcIMS 10でのサポートプラットフォームは、Red Hat Enterprise Linux のみにとなります。

◆ ArcGIS 10 リリースによる製品ライフサイクルの変更について

ArcGIS 10 のリリースに伴い、各ArcGIS製品のバージョン 9.1 のサポートが終了になります。また、ArcGIS Desktop 9.1 の販売も終了になります (その他製品のバージョン 9.1 の販売は終了済み)。